

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集

第30回全国公民館研究集会 第2分科会「青少年教育」より
 高校生ボランティアによる公民館事業へのサポート活動の取組
 ～阿賀町公民館サポーターズクラブについて～

4.5

2 **トピックス** 第30回全国公民館研究集会兼第48回関東甲信越静公民館研究大会開催

3 **視点** 牧振興会に関わって

3 **ひろば** 記録誌「年輪」について

6 **実践記録シリーズ** 新潟市における公民館活動協力員のあり方について

7 **サークル交流** みんな笑顔で楽しく (阿賀野市) / 楽しく仲良く元気良く (阿賀町)

7 **素顔拝見** 斎木 浩之さん (十日町市) / 渡邊 寛さん (刈羽村)



「秋の不動滝」 阿賀町

表紙解説 第14回四季のかみかわ写真コンクール入選作品
 撮影場所：阿賀町室谷区 不動滝

第30回全国公民館研究集会 兼第48回関東甲信越静公民館研究大会開催

「地域が輝く公民館の創造」

「元気な人づくり・地域づくりをめざして」

去る10月11日(木)～12日(金)の2日間にわたり、栃木県宇都宮市において、1,700人余名の多数の参加を得て、第30回全国公民館研究集会が開催された。



分科会



全体会

今回のテーマは、「地域が輝く公民館の創造」元気な人づくり・地域づくりをめざして。大会初日は、10の分科会に分かれて熱のこもった討議が展開された。分科会のテーマには、家庭教育、青少年教育をはじめ、公民館の管理運営や今日的課題など多岐にわたっており、厳しい行財政状況により、公民館職員の減少、事業費の削減がなされる中、地域が輝くためのまちづくりの拠点として公民館が果たす役割について、改めて認識する内容になっている。

本県からは阿賀町公民館津川分館より、阿部正人社会教育主事が、第2分科会青少年教育において、「高校生ボランティアによる公民館事業へのサポート活動の取組」阿賀町公民館サポーターズクラブについて」と題して、具体的な事例を交えて発表を行った。

第30回全国公民館研究集会アピール文

昨年12月、教育基本法が60年ぶりに改正されました。そこでは、生涯学習の理念が謳われ、家庭教育・学校教育・社会教育の3分野で、それぞれの責任を果たしながら、互いに連携し合い、有機的に結びあって、新しい学校教育・新しい社会教育の推進の大切さが示されています。

一方、全国各地の公民館を取り巻く状況は、近年目まぐるしく変化し、厳しさを増しています。公民館や公民館職員に対する要望や期待も多岐にわたっています。

また、地域によっては公民館の縮小や、そこで働く職員、経費の削減を主眼とした指定管理者制度への移行、或いは検討がなされております。

今、このような時期に、公民館に強く求められている事は、持続可能な豊かな社会や人々の心のヒダが触れ合う温もりある地域社会の創設への貢献です。

そこで、私たち公民館関係者は、これらの諸課題をプラス思考で捉え、一人一人が自己の力を存分に発揮し、公民館の振興発展のために、今後一層努力することを誓って、次の事項をアピールします。

記

1. 私たち公民館職員は、常に創意工夫し、魅力ある公民館活動を展開します。
 - (1) 地域に目を向け、地域のニーズを的確に捉え、元気溢れる公民館活動の展開に努めます。
 - (2) 自らの職責を自覚し、常に研修に努め、信頼される職員を目指します。
2. 私たち都道府県公民館連合会は、互いに連携し合い、地域に貢献できる公民館活動を支援します。
 - (1) それぞれの連合会で、公民館職員の力量を高めるため、研修会等を充実させます。
 - (2) それぞれの公民館活動が、より活性化されるよう情報交換を密にし、連帯意識を高めます。
3. 私たち全国公民館連合会は、全国的な視野に立って、未来を拓く公民館の振興発展に寄与する活動を展開します。
 - (1) 諸機関・諸団体との関係を密にし、公民館の役割の重要性や必要性を訴え世論を喚起します。
 - (2) 公民館を中心とした国の社会教育関係情報等を、積極的に収集すると共に、これからの公民館活動に資する研修や有益な資料等の提供に努めます。

以上

平成19年10月12日 第30回全国公民館研究集会

第2日目は宇都宮市文化会館において、はじめに第48回関東甲信越静公民館研究大会が行われた。全国公民館連合

会会長表彰では、本県から4人の方が表彰された(表彰者3面別掲)。

続いて全体会では、全国公民館連合会の松下会長挨拶に続き、関口文部科学省大臣官房審議官、福田栃木県知事の祝辞、そして佐藤宇都宮市長の歓迎の言葉の後、研究集会アピール(別掲)が満場一致で承認された。

最後の記念講演は、宇都宮市出身で作家の立松和平氏を迎えて、「生涯かかって学ぶこと」と題して行われた。文筆活動を行っていく上では、常に学び続けているということとを熱く語られた。

来年の第31回大会は、11月6、7日の2日間、高知県において開催予定。

(編集委員 小池和美記)

視点

牧振興会に関わって

牧振興会副会長 小林 良子



私達の住んでいる牧区は、平成17年に上越市合併になりました。牧区発足と同時に牧振興会を設立、副会長として3年になります。

人口流出が著しく世帯数千戸ほどの小さな区です。全戸会員を呼びかけ設立運営しています。過疎化が進み、超高齢化している現状で、どのようにして健康で安全、安心な暮らしが出来るかを考えて活動しています。運営は、管理、イベント、スポーツ学習、広報、交流、健康福祉と6部会に分かれて事業実施しています。

住民参加での組織、何をやるにも皆で考え知恵を出し協力し合って、「やはり、牧に住んでいてよかったね。」と言ひ合えるように活動していきたいと思っています。

地域の公民館としての役割は、今も昔も変わらなく人と人との連携、交流の場、研鑽の場としてとても大切と思っています。私も、子どもが小さい頃からずっと公民館と仲良くつき合わせていただいておりますが、地域のお茶の間、憩いの間、交流の場として、誰でもが自由に利用出来るようにと願っています。

H O T N E W S

掲 示 板

平成19年度全国公民館連合会表彰受賞者

第30回全国公民館研究集会兼第48回関東甲信越静公民館研究大会全体会で、下記の方々が表彰されました。

氏名	性別	所属	累積年数
◇優良職員表彰			
ぐみさわ 英男	男	十日町市川治公民館館長	14年2カ月
◇永年勤続職員表彰			
しまだ 由美子	女	糸魚川市浦本地区公民館副主事	16年
たかはし 雄平	男	神林村公民館館長	19年10カ月
◇公連勤続職員表彰			
すずき とも夫	男	新潟県公民館連合会事務局長	10年2カ月

記録誌「年輪」について

ひろば

魚沼市中央公民館運営審議会委員 星野 修美

日本は世界一の長寿国であり、健康で過ごせる人生の長さもそうであるという。健康寿命をどこまで伸ばせるか、公民館活動もこのための一助となることを目標としている。

堀之内公民館の高齢者大学では、老人クラブと共にお年寄りのエッセーや歌などを綴った記録誌「年輪」を、驚いたことに32年も発行し続けている。昨年も90名ほどの寄稿があった。そこには家族や地域の将来を思い、日々健康で過ごしていることへの感謝の気持ちや、住みにくくなった世の中を嘆く声も聞こえてくる。そして、やがて迎える死についても心の内をにじませている。

このドキュメントは生きた現代史だ。お年寄りの直感や時代を鋭く照射しており、その語りは未来を占う貴重なメッセージであると私は感じた。

これは、地域の記録集であることにとどまらない。生きた生活史の積み重ねは、何物にも変え難い立派な歴史的文献としてその価値を有することになるであろう。



第2分科会「青少年教育」より 公民館事業へのサポート活動の取組

～阿賀町公民館サポーターズクラブについて～

行委員の活躍を見学し、「自分達の時には、こんなふうになりたい」など主体的な意見を出していた。

【一般向けのパソコン教室】

講師アシスタントとして初心者に丁寧に教え、心配していたコミュニケーションも全く問題なく、質問にも笑顔で応え、受講者とアットホームな雰囲気を作り出していた。

【映画上映会】

視聴覚ライブラリー等で操作技能を習得するため研修を受け、公民館主催の映画上映会で映写機を操作し、実際に映画を上映した。「失敗はできない」とかなりの緊張感を感じながらも、問題なく操作をこなしていた。

【町民ゲートボール大会】

高齢者だけの大会だったゲートボール大会に新風を吹き込み、大会を大いに盛り上げた。また、最初は緊張気味であったが、途中からは高齢者と積極的に世代間交流を図っていた。

2 成果

(1) コミュニケーション能力の向上と技能、知識の習得

活動を通して、特にコミュニケーション能力が磨かれたと感じている。活動当初は、仲間内では楽しく話をしているのだが、いざ活動になると「真面目だけれども寡黙」という感じで、なかなか積極的に講座の参加者等とコミュニケーションを取ることはなかったが、数回、数十回の活動を通して積極性が出始め、自ら話しかけ、雰囲気を和ませるなど、当初からは想像もできないほどコミュニケーション能力が向上したと感じている。また、ボランティア活動のみ

ならず、数多くの体験・見学等の中で、様々な技能・知識を身に付けていたと感じた。

(2) 一般対象の生涯学習サポーターズクラブの発足

地域住民からは、「高校生があれだけ頑張っているなら」という声があがり、一般住民の中にも、ボランティア活動への意欲を盛り上がらせる要因となり、また、サポーターズクラブのOB・OGからも「卒業後も活動したい」という声があがり、そういった声に応え、本年度より一般向けの「生涯学習サポーターズクラブ」を立ち上げるようになった。まさに、高校生の活動が地域を良い方向へ動かした成果である。

IV 今後の課題

活動は4年目に入り、軌道に乗ってきた。ただ、毎年、高校を卒業するメンバーがいる状況で、メンバーの入れ替わりというものが必ずある。しかも、毎年メンバーの約5割は部活動を引退した3年生ということもあり、そういった意味で安定的に活動できる人数の参加を得られるよう、今後も発足当初からの「楽しさ」「やりがい」という二つの柱を中心とし、活動等のマンネリ化を防ぎつつ、「より多くの参加を得る」ことができるよう、活動内容の創意工夫、また、PR活動に一層、力を注いでいく必要があると感じている。



特集

第30回 全国公民館研究集会 高校生ボランティアによる

新潟県阿賀町公民館津川分館
社会教育主事 阿部 正人



I はじめに

1. 阿賀町の概要

阿賀町は、平成17年4月1日に東蒲原郡内の津川町・鹿瀬町・上川村・三川村の4つの町村の合併により誕生した。位置は新潟県の東部に位置し、県都新潟市から東へ磐越自動車道で約35分、一般国道49号線では約60分で町の中心部に到着する距離にあり、町の東側は福島県の県境と接している。

町の中央を阿賀野川とその支流の常浪川が流れ、その沿岸の段丘を中心に開けた山間地域で、中心部は比較的平坦であるが、周辺は急峻な山岳地帯に囲まれており、北に大きく飯豊山塊が広がり、南には越後山脈が南北に走っている。町の面積は952.88km²で、新潟県の面積の約7.6%を占める広大な面積を誇る一方、人口は年々減少を重ね、平成17年国勢調査では14,700人余りと、過疎化並びに少子高齢化が急速に進んでいる。

2. 阿賀町公民館の状況

阿賀町公民館については、本館中心に、合併前の町村単位の各地区に1つずつ分館があり、それぞれ各種教室、講座、行事等を開催し、また、各地区のコミュニティー事業を展開している。

II 活動の内容

1. 事業の目的

活動を通して、多くの方々との関わりの中で社交性を身に付け、また、多種多様な経験を積み、心身の健全育成を図りながらボランティア精神を養うことを目的としている。



2. 対象

県立阿賀黎明高校（町内）の生徒及び町外の高校に通う町内在住の高校生

3. 主な活動の内容

- (1) 小学生の体験活動等の指導、引率補助
- (2) 各種一般向け教室、講座の運営サポート
- (3) 一般向けパソコン教室の講師アシスタント
- (4) 成人式等の各種行事の運営サポート
- (5) 町民ゲートボール大会など各大会への参加（世代間交流）
- (6) 上記の活動に伴う体験活動等（各教室での創作活動や16ミリフィルム映写機の映写技術の習得等）
- (7) 各種研修会の開催及び参加
- (8) 月1回の活動の打合せ会議

III 評価と成果

1. 評価（活動の様子から）

【小学生の体験活動の指導、引率補助】

小学生対象の創作教室や料理教室では、参加者に優しく丁寧に接して、講師の補助として活躍し、スムーズな事業運営に貢献した。

また、キャンプ体験などではいち早く小学生の心を掴んで小学生のやる気を上手く引き出していた。

【成人式】

会場設営に携わりながら、先輩の式典実

実践記録

116

シリーズ

- ④ 地域の人材の発掘、育成に協力する。
- ⑤ 公民館の調査に協力する。
- ⑥ 公民館活動へのボランティア的な支援にあたる。
- ⑦ 公民館活動の地域への広報活動を支援する。

新潟市における公民館活動協力員のあり方について

新潟市白根地区公民館
運営審議会委員 関根省三



- (1) はじめに (省略)
- (2) 時代の潮流 (省略)
- (3) 「公民館活動協力員」体制について

さて、くどくどと私なりに感じてきたもろもろの感想を述べましたが、いよいよもって、新潟市の公民館体制について触れてみます。前述の繰り返しですが、新しい社会意識を持つ時代—情報産業が主力化、家族の情愛の崩壊、価値観の相対化など—と、合併による政令市として新潟市の環境での公民館システムは、どういう方向に転換するのが良いのか。住民サイドからの要求は何か。課題が生じております。

政令市・新潟市において、各公民館に配置されていた運営審議会は廃止となり、各「区」に基幹公民館を置き、基幹公民館のもとに地区公民館という配置換えが提出されました。総括する中央公民館を頂点として、「区」の基幹公民館、「区」内に地区公民館というピラミッド型のシステムであります。運営審議会が各公民館から廃止されましたので、基幹公民館に運営審議会を設置し、地区公民館に「公民館活動協力員」なる名称を持って、新たに各地域における公民館活動、事業展開を推進する委員の設置制度を要望したところであります。

平成17年7月に政令市・新潟を構成する各地域の代表者の会議が開催されました。すでに、概観的な素案の準備があり、各地区代表から素直な意見が出されました。私も白根地区の代表として参加したところです。白根地区におきましては、小学校区単位に設置された各公民館分館に「推進委員」なる方々が数名おられ、公民館活動については企画・運営・応援という体制がありましたので、運営審議会が廃止される地区公民館には、何が何でも「公民館活動協力員」制度を設け、地域に密着する活動家の必要性は感じておりました。冒頭述べましたように、地域力が低下している中、また、家庭の求心力も落ちている。さらに、都市部と近郊農村部とは社会環境にも差異はあります。もちろん、公民館活動がこれらの新時代の矛盾をすべて調和するというような認識はありません。

会議においては、やはり本音のところは、(旧)新潟市と合併された地域との思惑であります。しかし、新潟市が「分権型」政令市を理念として掲げ、それを実践していくという背景がある以上、各代表者とも各地域の実情、地域の個性を生かすことには賛同の意を表され、このたびの「公民館活動協力員」の設置に至ったところであります。

「公民館活動協力員」の役割としては、

- ① 公民館事業の企画・運営に参画・協力する。
- ② 地域の実態や学習ニーズを把握し、公民館に助言する。
- ③ 地域・学校の橋渡しをする。

できるだけ多くの住民に公民館事業に参加してもらうためには広報活動が必要とし、公民館の広報紙や事業のチラシの製作、配布、口コミにいたるまでさまざまな支援を行うことと定義づけをしました。

- ⑧ 公民館活動を検証し、点検する。

自ら事業に参加したり、公民館利用者や事業参加者に対するアンケートや聞き取りなどから、住民の立場から公民館活動を検証し評価して、よりよい事業を模索していきます。

任期は、3～4年という意見もありましたが、公民館運営審議会委員の任期に合わせ2年とし、再任は妨げないこととします。

人数は、5人、あるいは20人以上と様々な意見がありましたが、地域の人口や実情を考え、10～15人とするというのが適当ではないかということになりました。

活動回数は、少なくとも年2回以上とか、10回程度は最低とか、かなり幅広い意見がありましたが、公民館活動全体のことや地域のことを理解したうえで、協力活動を行うために年10回程度としますが、それぞれの公民館の実情により若干活動日数が増えることが考えられます。

報酬は、無報酬で良い、交通費プラスアルファが良い、1回につきいくらかというようにさまざまな意見がありました。しかし、会議への出席、公民館へのアドバイスや企画だけでなく、それなりに責任が伴うことが多くあり、報酬はきちんとあったほうが良い、更にイベントへの参加、住民への広報など、いろいろなところへ足を運ぶ活動が含まれているので、それらを勘案し、若干の報酬は必要とのことから年額25,000円が妥当との結論に至りました。

活動協力員はその名称が示すとおり、実践的で行動する位置づけであります。企画・運営に参画・協力、住民のニーズの把握、広報活動、公民館活動への支援・検証・評価等々多方面での活躍を要請されるものであります。

組織的には、一見、ピラミッド型構成であります。が、「活動協力員」の代表者は、基幹公民館の運営審議会委員にもなります。また、基幹公民館の代表は中央公民館の会議の構成メンバーでもあります。従って、地域の「見えにくい」部分も中央公民館にて映し出されることになるでしょう。また、逆に「市」としての公民館事業・活動も、各地域に情報公開されることになるでしょう。

新しい時代、さらにはこれから将来に向かって公民館活動がどのような方向に向かうのか未知数あると思いますが、少なくとも、新潟市においては教育委員会が都心の市役所本庁に置かれ、各「区」には教育事務所として学校教育事務に集中した中、社会教育、生涯学習、おおげさにいえば、地域住民が相互にコミュニケーションをとれる学習の場は、公民館活動・事業展開にあるものと思っております。

「公民館活動協力員」制度の設置が、政令市・新潟における公民館活動の拠点的な役割を担っていくものと考えております。

各公民館と運営審議会委員等の配置状況及び役割・委員構成

	公民館代表委員	公民館運営審議会委員	公民館活動協力員
中央公民館 (基幹公民館・地区公民館兼)	●	◆	(運営審議会委員が役割を担う)
基幹公民館 (中央公民館を除く地区公民館兼)		◆	(運営審議会委員が役割を担う)
地区公民館			▲
主な役割	全市的な課題について、調査・審議し、教育長に提言する。	各区の基幹公民館に配置し、区内の公民館の各種事業の企画実施に関する調査審議を行う。 館長の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施につき調査審議する。	運営審議会委員に代わるものとして、公民館職員と一緒に becoming 企画立案運営等に関わる。 ① 公民館事業の企画・運営に参画・協力する。 ② 地域の実態や学習ニーズを把握し、公民館に助言する。 ③ 地域・学校の橋渡しする。 ④ 地域の人材を発掘、育成に協力する。 ⑤ 公民館の調査に協力する。 ⑥ 公民館活動へのボランティア的な支援をする。 ⑦ 公民館活動の地域への広報活動を支援する。 ⑧ 公民館活動を検証し、点検する。
委員構成	・各区の基幹公民館運営審議会代表委員	・区内の地区公民館活動協力員の代表 ・基幹公民館長が推薦する委員 ・公募委員	・地区公民館長が推薦する委員 ・公募委員
任期	2年	2年	2年

みんな笑顔で楽しく

阿賀野市ウインドオーケストラ

私達のウインドオーケストラは、阿賀野市の誕生を機会に世代を越えて音楽に親しみ、広め、親睦を深め、地域の皆さんと一緒に楽しむことを目的にスタートして四年目です。

メンバーは、阿賀野市を中心に周辺の地域からこの目的に賛同し参加された10代から70代、親子や夫婦もあり四十余名です。毎週土曜日の晩に、職業や学業の都合をつけて集まり、笑顔で賑やかに和やかに練習して音楽創りを楽しみます。

コンサートやライブ、地域



行事(市文化祭・あやめまつり・生涯学習フェスティバル

や敬老会)、小学校行事や音楽教室などで90曲を越えた曲目でがんばっています。ウデ前に拘わらず、初心者もベテランも仲良く楽しく続けています。

市ウインドオーケストラ

代表 荒木 潤 記



楽しく仲間へ元氣良く

この会

このパッチワーク活動は、8年前に公民館主催事業として発足したのが始まりで、3年前から自主サークル活動に移行し現在に至ります。会員数は9名ですが、月2回の活



動が会員同士のコミュニケーションの場として、楽しく作品製作に励んでいます。ここで作成した作品は毎年町の文化祭に展示され、多くの町民の皆さんに作品を通して幅広くPRしています。会員の年齢は50〜60代と決して若くありませんが、毎年国内旅行を計画して今年春には沖縄県に行きました。綺麗な海と郷土の文化に触れることができるとても満足しています。今後も楽しいイベントなどを入れながら、この活動を末永く取り組んでいきたいと思

阿賀町つくし会

代表 清野ウメ子 記

4月の人事異動により水沢公民館に配属になった若手のホープで、花嫁募集中の独身貴族(?)です。主に講座や教室の開催と公民館利用団体のお世話を担当しており、学ぶことは実践からと、早速青級ホームの「花道コース」に入り、唯一の男性として頑張っています。

また、最近には必要に迫られてか公民館講座の「男の料理教室」にも参加し、20人ほ

十日町市水沢公民館 主事 斎木 浩之さん



どの中年男性とともに楽しく公民館活動を自分自身で体験しているようです。

公民館では地域の皆さんと一緒に活動し、地域の皆さんから元気を出してもらうことが大切であると、笑顔で挨拶、明るい対応をモットーに、一日も早く地域の皆さんに好かれる職員になろうと頑張っています。

(十日町市水沢公民館館長補佐 南雲和幸 記)

渡邊くんは昨年より新規採用で教育課に配属されたフレッシュマンで、バリバリの体育会系です。学生時代は野球で青春の汗を流し、水泳インストラクターの経験を持つスポーツ万能人であり、現在もコーチとして子ども達に野球を教えています。

そんな渡邊くんですから公民館活動も特にスポーツ活動を中心とし、体育指導



刈羽村教育委員会 教育課 主事 渡邊 寛さん

員と一緒に住民みんなが楽しめるスポーツ活動を日々考え、頭を悩ませています。

まだまだ新人で悪戦苦闘の毎日を送っているみたいですが、一生懸命頑張っている姿からみんなをリードする日も近くに感じられます。

がんばれ渡邊！ファイトだ渡邊！公民館の星をめざすのだ!!

(刈羽村教育委員会 教育課 太田 寛 記)

笑顔 拝見

Network

いじめ根絶子ども宣言

いじめをしている私たちへ

なぜ人をいじめめるの？

「うざい」「キモイ」「死ねば？」胸を突き刺すような言葉。

人のことをバカにして笑い、遊び感覚で楽しむ日々。

そんなこと、いいと思っているの？

苦しんでいることを分かっているはずなのに？

自分がされたくないことは相手にも絶対しない決意を、

いじめを断ち切る勇気を、心にもって行こう。

いじめを受けているあなたへ

一人で苦しまないで。

勇気を出して心の痛みを伝えてほしい、友達に、家族に、先生に。

「私たち、仲間だよ」、そう思ってくれる友達が絶対いるから。

「あなたが、大事だよ」、そう思ってくれる家族がいるから。

あなたは決して一人じゃない、それだけは信じて。

あなたのいのち、かけがえのないぬくもり。

さあ、勇気を出して、心を開いて。

見て見ぬふりをする私たちへ

勉強より、部活より大切にしたいものがある。それは、「仲間」。そう思いませんか？

でも、大切な仲間がいじめをしていたら、止めることができるだろうか？

大切な仲間が、いじめを受けていたら、全力で守れるだろうか？

「自分さえよければなんて、ゼツタイに思っていない」と、言い切れるだろうか？

今、あなたと一緒に考えたい。

仲間の本当の意味を、やさしさの本当の意味を。

すべての仲間へ

もっと、いじめに目を向けようよ。

「私には関係ない」、「俺は知らない」、「そんなこと、」絶対に思ってはいけない。

私たちは、仲間がいるから成長できる。

一緒に笑い、一緒に悩み、一緒に、今を、将来を語り合おう。

「おはよう」心から笑顔であいさつを交わそう。

「ばいばい。また明日、がんばろうね。」あなたがいるから、私もがんばれる。

こんな当たり前の学校生活、みんなで作っていこうよ。

今、すべての仲間の心をつなげて、宣言します。

仲間のために、私ができること…

それは、小さな勇気をもつこと。

それは、仲間の力を信じて、私の一歩を踏み出すということ。

私たち新潟県の子ども28万人は、この決意を心に刻みます。

平成19年8月7日

上越地区いじめ根絶スクール集会

恵贈資料紹介

片野 親義

第58回新潟県公民館大会会場で紹介する予定の片野親義先生の冊子です。

内容は、第一章社会教育へのアプローチ、第二章公民館とは、第三章公民館における実践と自己形式 1 公民館と自治体の役割 2 見える要求と見えない要求 3 地域課題を取りあげる、第四章私の公民館職員論 1 公民館職員をめぐる状況 2 公民館で働く意味―社会教育労働の総合性と二面性― 3 地域から期待

され信頼される職員になるために 4 公民館職員の専門性とは、第五章社会教育と生涯学習が求めているもの 1 社会教育の法的理念と生涯学習の体制づくり 2 社会教育法と生涯学習振興法 3 講義を

終了するにあたって、終章若い生命の輝きと学びの真実にふれて 1 新しい自己との出会い 2 体験としての社会教育 3 学びの主体となるために、等から構成されておりま

著者の現場体験に基づいた説得力あふれる冊子です。

ご希望の方は左記へ

発行所 (株)ひとなる書房

電話 〇三三三八一一三三七二

FAX 〇三三三八一一三三八三

(二、一〇〇円税込み)



event information



お問い合わせ先
新潟県立自然科学館
電話 (025) 283-3331
FAX (025) 283-3336

あ と が き

吉 報が入って参りました。

文部科学大臣による第

60回優良公民館表彰に、新

潟市西川地区公民館と同市

石山地区公民館の二館が受

賞の栄に浴することとなりました。

10月22日(日)東海大学校友

会館での表彰式後、天皇・皇

后両陛下拝謁及び庭内拝観

がなされました。詳細は次号

に掲載予定です。(鈴木 記)